

水中の生物の動き

ねらい 空気の 900 倍もあるという水中の密度の中で水抵抗を小さくして動くために、水中生物はどのような体形でどのように動くか観察します。

時間 2 時間以内

場所 川・海

人数 何人でも

季節 春～秋

用具 すくい網・バット・ルーペ付きの透明なプラスチック箱
透明なプラスチックのコップ・虫眼鏡

手順

- 1 すくい網を使って 10～15 分間、水中生物の採集をしましょう。
- 2 採集した生物をバットに移し変えて、動きをよく観察しましょう。(移動する時どのように動きましたか？ / 体のどの部分を動かしていましたか？ / 移動以外の動き方にはどんなものがありましたか？たとえば、逃避行動はどのようにするのでしょうか？体の構造はどうなっているのでしょうか？)
- 3 2 と同様に他の生物に対しても動き方や体の構造について比較してみましょう。
- 4 バットに小石や棒があった場合の動き方に何か違いがあるか観察してみましょう。他のチームの子達の採集した生物を互いに見せあいっこしましょう。また、その生物のモノマネゲームもしてみましょう。

ポイント

生物は一端住処から引き離したら生きていけいということを良く理解させ、観察による人為的な破壊は最小限にとどめるようにし、戻すときもなるべく採取したあたりに放すようにしましょう。水辺の生物たちがもつ水中に「適応」した体の構造（ひれ・ひれ足）についての説明と、体の一部を変化させながら周りの環境に「適応」してきたことが必要な理由（子孫を絶やさないため・自然界に生き残るため）について説明しましょう。移動するということは動物にとってどんな利点があるのか考えてみましょう。

